

みんなで作る
園の未来!

保育ナビ

12

2024
DECEMBER
<9/12>

特集

成功のカギは「マインドセット」
ゼロから始める
園内研修

園のかたち 2024
0~15歳、
シームレスな
学び舎

共創のための
リスペクト型マネジメント
地域の学び合いで
研修づくり・園づくり
東京都世田谷区

一人ひとりの感性が輝く
アートな世界
粘土と
仕掛け遊びの
おはなし

『保育ナビ』の使い方

読む

まずは、自分で読みます。回覧したりして、園内でも各自で読みます。



語り合う

読んだ記事をもとに、園内で「雑談」をしたり「研修」をしたりしてみましょう。



保育の質の向上へ

読み、話すことで、園内で学び合い・語り合いが生まれ、保育の質が高まります。



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園長 主任 学年リーダー

マークのついているコーナーでは、園内で話し合うためのお題・ワークを用意しています。職員会議や園内研修などでご活用ください。

マークのついているコーナーではワークシート等のダウンロードができます。右の二次元コードからアクセスしてください。



マークのついているコーナーでは、関連動画があります。

Hoiku navigation

『保育ナビ』が伝えたいこと

園内研修の活用でより良い保育へ

12月は、子どもたちも落ち着いて保育が充実している時期だと思います。年度末に向けて、より充実した保育にするためには、園内研修の活用も有効な手段です。そこで、今月は、園内研修が成功するためのマインドセットについて特集で提案しているほか、様々なコーナーで保育を広げるための話題を揃えていますので、園内研修のテーマとして、ぜひ、ご活用ください。 — 『保育ナビ』編集部

『保育ナビ』は、編集委員がサポートしています。

秋田喜代美 (学習院大学)
浅井幸子 (東京大学)
大方美香 (大阪総合保育大学)
大豆生田啓友 (玉川大学)
北野幸子 (神戸大学大学院)
古賀松香 (京都教育大学)
境 愛一郎 (共立女子大学)
汐見稔幸 (東京大学名誉教授)
砂上史子 (千葉大学)
松井剛太 (香川大学)
無藤 隆 (白梅学園大学名誉教授)
矢藤誠慈郎 (和洋女子大学)
敬称略 50音順

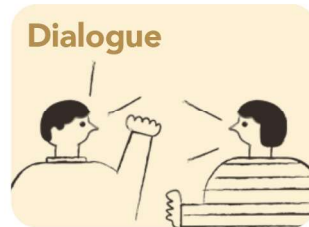
巻頭

フレーベルのことば 汐見稔幸 小西貴士

特集

成功のカギは“マインドセット”
ゼロから始める
園内研修 …4

矢藤誠慈郎



園紹介

園のかたち2024 …18

学び舎 ゆめの森 (福島県双葉郡)

注目テーマ

園 幼保小の架け橋に
「10の姿」で見る小学校の活動 …22
無藤 隆

なるほど!
「こども誰でも通園制度」…24
秋田喜代美

共創のためのリスペクト型マネジメント
地域の学び合いで
研修づくり・園づくり …26
大豆生田啓友

保育内容

リ 3・4・5歳児 遊びが育つ保育
協同性の発達と遊び …30
田代幸代

園 0・1・2歳児保育の
センス・オブ・ワンダー …32
井桁容子

主 チャレンジ!
子どもの姿ベースの指導計画 …34
大豆生田啓友 岩田恵子

リ 子どもに保育研究を伝える
～子どもたちへのメッセージ～ …38
松井剛太 金子嘉秀

一人ひとりの感性が輝く
アートな世界 …40
足立真知子

密着!
ミドルリーダーのしごと …44
境 愛一郎

保育の種
子どもの健康を守るために …46
認定こども園すなはら

主 若手育成のための
文章の書き方練習帳 …47
浅井拓久也

子どもたちのミーティング
Q&A …48
青山 誠

information …49

国の動き

国の動きを読む!
研究者の目2024 …50
大方美香

園経営

コンサルタントが読み解く
新時代の園経営2024 …52
桑戸真二 風見洋平

主 ビジュアルで読み解く!
園の危機管理
ポイントチェック …54
脇 貴志

人材育成

「人格」を軸とした人事と研修
エリクソン ティール組織
東洋思想から学ぶ …56
久保健太

園 リーダー座談会
人材育成 わいわい語り場Ⅲ …60
松山洋平



Atmosphere



特集

Break through



成功のカギは“マインドセット” ゼロから始める 園内研修

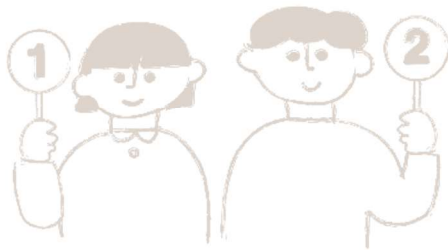
「園内研修に取り組んでいるがうまくいくコツを知りたい」という保育現場の声に応え、今年8月、保育ナビブック『園内研修を通じた保育の変革 A to Z 保育の質の向上に役立つ32のコツ』を小社から刊行しました。著者の矢藤誠慈郎先生は「成功のカギはマインドセット（心の構えや、ものの見方・考え方）」だと言います。そこで本特集では、ゼロから園内研修を始める園や、さらに充実を目指す園の読者に向けて、同書の中から成果を上げるマインドセットに変わるためのキーワードをいくつか取り上げ、より良い園内研修のヒントをご紹介します。

監修 矢藤誠慈郎（和洋女子大学） イラスト／友澤健太郎

Change



Youngster



Positive



X factor

Environment

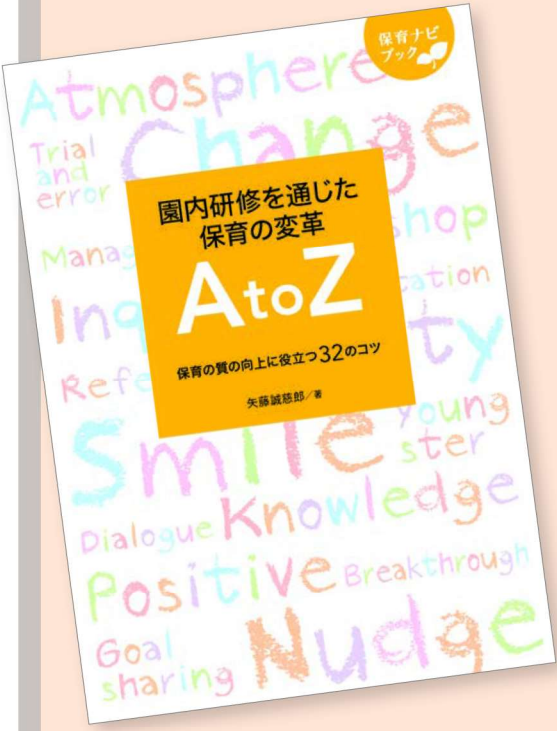


Zoom in





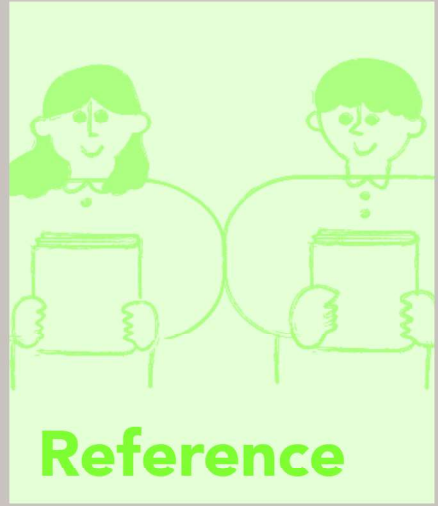
新刊



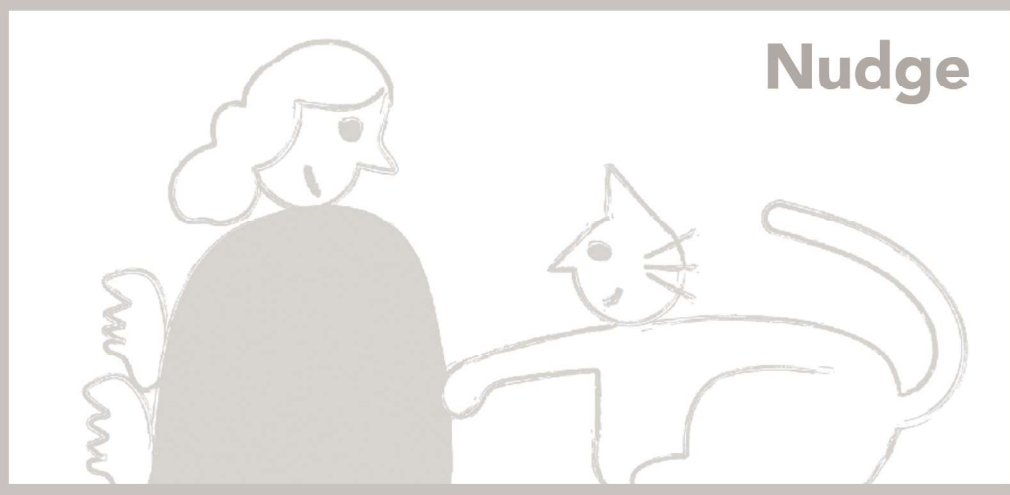
保育ナビブック
**園内研修を通じた
 保育の変革 A to Z**
 保育の質の向上に役立つ 32 のコツ

著／矢藤誠慈郎
 定価／2,420 円（本体 2,200 円＋税 10%）
 80 ページ 26 × 18cm
 ISBN 978-4-577-81550-2 108-30

「園内研修を通じた保育の変革」で成果を上げるには何がポイントになるのか？ 長年、多くの自治体や園の取り組みに伴走してきた著者が、時間などの余裕のない保育者・園が小さな変革を生み出し続ける園内研修のコツを大公開。



Reference



Nudge



Judgment

Contents

- 提言**
 マインドセットが変わると園内研修が変わる …P.6
 矢藤誠慈郎
- ポイント**
 マインドセットを変えるためのキーワード …P.8
 矢藤誠慈郎
- 座談会**
 誌上 Q&A
 ～現場の疑問に答えます …P.12
 矢藤誠慈郎、伊藤瑞穂、牛垣順子、大野伸治

information

『保育ナビ』編集部からのお知らせ

『保育ナビ』は SNS や公式サイトでも様々な情報を配信しています。
より早く、より詳しい情報を知るためにぜひともチェックしてみてください。

公式サイト 『保育ナビ』最新刊はもちろん、バックナンバーや
保育ナビブック、特別コラム等の情報をお届けしています。



Facebook 『保育ナビ』のおすすめコーナー、特別コラムの
更新情報などを発信しています。



YouTube 「保育ナビ YouTube チャンネル」では、大豆生田啓友先生に
よる「保育ナビらじお」、保育ナビ編集委員の先生方による
オピニオンなどを配信。



Instagram 編集部からの情報や
保育ナビの注目 Topic をお届けします。



保育ナビ

第8回

くつろぎと学びとが混じり合った姿

「人間の育ち合い」を大事にしたい。そのための組織づくりを工夫したい。そうした工夫を実際に行っている人たちの姿と、その姿を読み解く理論を紹介します。



執筆 久保健太
(人妻女子大学)

「人格」を軸とした 人事と研修

エリクソン
ティール組織
東洋思想から学ぶ

頑張りすぎちゃ
いけないですよ

先日、全国認定こども園協会のオンライン研修を撮影しました。15時間の研修を、2日間で撮影するというハードな日程でした。

認定こども園こどもむら（埼玉県久喜市）とつつじ幼稚園（同戸田市）の保育者の方々がZoom越しだったり、対面だったりで参加しながら、撮影を手伝ってくれました。

9時から18時までの撮影は、高校時代の野球部のようなしんどさでしたが、保育者の皆さんと協会スタッフの皆さんの「学ぼうとする姿勢」に助けられて、楽しく終えることができました。そんな撮影を2日連続で行って、へとへとになりながら、みんなで打ち上げに行きました。

その席で、こどもむらの柿沼

平太郎さんに「柿沼さんの法人の保育者の方々って、学ぶのが好きなんですね」と伝えたら、「もうね、僕は、何もしていないんですけどね」「いやね、頑張りすぎちゃいけないですよ」とのこと。

同法人の方々も、「そうよね、木曜日から、飲みに行っちゃったりするしね、アハハ」ってな感じ。

とは言いながら、その席は、皆さんノンアルコールでした。理由を聞くと「今日は、火曜日でしょ」「それに、明日の朝は、早いからね」。

うーん、いいですね。

タモリさんの名言「やる気のある者は去れ！」とか「真剣にやれよ！ 仕事じゃねえんだぞ！」に通じるものがありますね。

わが老子も、次のように言っています。



第三章 飯だけはたっぷり喰う

世間が

頭のいいやつを褒めるもんだから
ひとはみんな

利口になるうとあくせくする。
金や宝石を大事にするから

盗っ人がふえる。
世の中が

生きるのに必要のないものまで
やたらに欲しがらせるから

みんなの心がうわずってしまっ
んだ。

だから道につながる人は

あれこれ欲しがる心を抑えて
飯だけはたっぷり喰う。

野心のほうは止めに
して骨をしっかりとこしらえるんだ。

みんなが

無用な情報や餘計な欲を持たな
ければ

ずるい政治家や実業家だつて
ついている隙がないのさ。

そうなんだ、
無用な心配と餘計な欲をふりす
てりやあ

けっこう道はつくもんだ、
行き詰つても――

(加島祥造『タオ』ちくま文庫、
P.23-25)

難しいですね。

というのも、学びつて「情報」
を獲得することじゃないですか。

この『保育ナビ』にも、いろい
ろな「情報」が載っているじゃ
ないですか。

とはいえ、「たくさん学ぶこ
とがいいことだ」だけが、その

組織の評価軸になってしまつと、
「たくさん情報を獲得した人

が、立派な人だ」ということにな
って、「頑張りすぎないこと」

が評価されなくなってしまう。
どう考えればいいんでしょう？

自分の絵を見つける

この10月から、全国私立保育

連盟の機関紙『保育通信』に
「主体性が湧き出ちゃう保育」

という連載を始めました。そ
の連載では、58ページのような

「やじるべえ」の表を使いながら
人間の発達を描いています。

この表のうち、「学ぼうとする
姿勢」は、「やじるべえ」の「第

四期」に書かれています。
それは映画『魔女の宅急便』

に出てくるキキのような姿です。
「魔女の村」を出て、「海の見

える街」へ行く。「広い世界」に
出ていく。そこで、オソノさん

と出会い、宅急便を始める。
しばらくは順調に行く。しか

し、壁にぶつかる。絵描きのウ
ルスラが遊びに来る。

「商売はどう？ 軌道にのっ
た？」

「いま、お休み中なの」

「へえ……」

(中略)

「魔法も絵も似てるんだね」
「あたしもよく描けなくなるよ」

「ほんと？ そういつ時どうす
るの」

「そういう時はジタバタするし
かないよ。
描いて描いて描きまくる」

「でも、やっぱり飛べなかつた
らっ」

「描くのやめる。
散歩したり、景色を見たり、
昼寝したり、なにもしない。」

そのうちに急に描きたくなる
んだよ」

「なるかしら……」
「なるさ」

(中略)

「あたしさ、キキくらいの時に、
絵描きになるうって、決めたの。
絵、描くの楽しくってさ。」

寝るのが惜しいくらいだった
んだよ。

*「魔女の宅急便」© 1989 Eiko Kadono/Hayao Miyazaki/Studio Ghibli, N

プロフィール●久保健太(くぼけんた) / 三重県で生まれ、埼玉県で育つ。専門は教育哲学。健やか子育て連絡会(横浜市)の委員として、大日向小学校(佐久穂町)の理事として、育児と保育・教育をつなぐことを目指す。著書に『主体性から理解する子どもの発達』(中央法規出版)、『生命(いのち)と育ちの哲学』(北大路書房)など。



	野性の主体性／感じる主体性	知性（社会性）の主体性／考える主体性	
	①	② ③	
第一期	<ul style="list-style-type: none"> ●素の自分。生（なま）の自分。裸足の自分。自然体。 ●ヌミノース（エリクソン）、溶解体験（矢野智司）：到来する出来事に身を委ねる。吸い込まれ、飲み込まれ、包み込まれる。 ●ひびき合い（大田堯）。 ●世界の奥行きにふれる（ドゥルーズ）。 ●ないまぜのまま欲望が湧いてくる。 ●「光と影（長谷川博一）」の素。 ●生きていく確かさを感じる。生きていく実感に満たされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ないまぜのままでも、応答してもらえる。 ●できなくても、信じてもらえる。見放されたいという基本的信頼の感覚。 ●離れても、戻ってきてくれる。 ●「ひよっとしたら応答してくれないかも。」 ●見放されるかも。 ●戻ってこないかも。 ●いったん離れても、戻るよ。やり直せるよ。 ●壊れくも、直せる。 ●ケンカしても、仲直りできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ちゃんとしないと応答してもらえない。 ●できないと見放される。 ●離れたら戻ってこない。 ●戻ってこなくてもいいや。
第二期	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のカラダの声を聴く。自分を大切にす。 ●「なんかいい」「なんかやだ」「なにこれ！」 ●欲望のままにカラダを動かす。 ●その発弾が、自分のカラダにぶつかる。相手のカラダにぶつかる（弾力：倉橋惣三、水津幸恵）、ココロにぶつかる。 ●できることはたくさんある。だけど、これはダメなんだ。そう自分で決めたんだ。 ●分別（できることとできないこと）と倫理（快はやりすぎると不快になる）、光と影。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「じぶんで！」「やだ！」 ●自分のことは自分で決めたい（選びたい）。 ●★その子の「間」で。 ●「みてて！みてて！」 ●周囲の期待に応えたいし、視線を向けてほしい。 ●周囲からの期待を感じる。 ●★すれ違い、食い違い、ズレに出会える。（ちゃんと、ズレる。違いがあらわになる） 	<ul style="list-style-type: none"> ●「みないで！」 ●周囲の期待はわかっていてくれるけれど、期待や視線がづらいよ……（恥）。 ●自分が選んでいることって、周囲が期待していることばっかりじゃ……（疑惑）。 ●約束、順番、役割が重荷になって、失敗が怖くて……。
第三期	<ul style="list-style-type: none"> ●イマジネーション・ユーモア・ナンセンス。 ●見えないはずの世界（イマジネーションの世界）を生きる。 ●自分（たち）の「物語・ドラマ」を生きる。 ●「約束」の外側を感じる。描く。（「玩具と理性」）。 ●世界の（現実の）外側を見る。 ●生きていくものどうしの想像力、共通感覚のアリコラージュ（山本一成） ●正しくありたい。良心（エリクソン）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちのイメージする世界を自分たちの手づくりしたい。約束、順番、役割を自分たちでつくりながら。 ●世界（現実）をつくりながら、その世界（現実）を引き受けていく。 ●約束、順番、役割に責任を感じるけれど、自分たちでやりたいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が頑張ったって、どうせ……。 ●自分の小ささを引き受けたくなく、失敗を避けようとしていたり、自分を大きく見せようとしていたり。
第四期	<ul style="list-style-type: none"> ●「世界の奥行きにふれる（ドゥルーズ）：「なにこれ！」「ふしぎだな、ぶきみだな」「おもしろそう！」。 ●「やりたいけど、できない。」そんなときに感じる自己充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ●奥行きに向かって、謎に向かって、イメージに向かって、見えないはずのものに向かって、いろんなことを試しながら、自分で自分を育てていく。 ●自分の好きなこと（こだわり）を見つけ、その世界に没頭し、必要なスキルを高めていく。身体に文化を刻んでいく。 ●広い世界で通用するスキルを身につけていく。 ●考えること、工夫すること、頭を使うことが大好き。 ●「できなくても、やれば、できる」という有能感（competence）の感覚。 ●広い世界に出て、自分の小ささを知る。 ●人と自分を比べてしまう。 ●自分は下手だし、あの子の方が上手だけど、やりたいから、やってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が頑張ったって、どうせ……。 ●自分の小ささを引き受けたくなく、失敗を避けようとしていたり、自分を大きく見せようとしていたり。

②が振り切れると

それがね、ある日、全然描けなくなっちゃった。描いても描いても気に入らないの。それまでの絵が、だれかのマネだつてわかったんだよ。どこかで見たことがあるってね。自分の絵を描かなきゃって……「苦しかった？」それは今も同じ。でもね、その後、少し、前より絵を描くってことわかったみたい……」

『魔女の宅急便』より筆者がテキスト化）

いいですね。

自分の好きなことを見つける。自分の大事にしたいことを見つける。自分のこだわりを見つける。自分の絵を見つける。

キキは、宅急便屋さんとしてのこだわりを見つけていきます。それは、単にモノを運ぶんじゃないんだ。人と人との気持ちを運ぶんだ。というこだわり。そのこだわりを実現するために、キキは、自分に必要なスキルを身につけていきます。それが「第四期」。「学ぼうとする姿勢」が盛んになる時期です。「やじるべえ」の「第四期」。その「①」のあたりの姿です。

学びたくなる。だから、学ぶ

とてもすてきな姿ですが、いくつかの落とし穴があります。エリクソンに言わせれば、それは「人と自分を比べてしまうこと」。

それが転がって「たくさん学ぶことがいいことだ」とか「たくさんさんの情報を獲得した人が立派な人だ」という価値観にとら



われてしまうこと。「やじるべえ」の「第四期」。その「②」や「③」の姿です。

だからと言って「人と比べなくてもいいんだよ」と言ってみたところで、あまり意味はありません。

「人と比べちゃう気持ち」はふくらんでしまうのだから。

それは「学ぼうとする姿勢」と「やじるべえ」になって、自然に湧き上がってきちゃうものだから。

必要なのは、別の軸を持ち込んでやること。そうして、軸をずらしてやること。

となれば、どんな軸を持ち込めばいいのか？

柿沼さんや老子、ウルスラが教えてくれるのは「頑張りすぎない」「飯だけはたっぷり喰う」「散歩したり、景色を見たり、昼寝したり、なにもしない」という軸。

素の自分であること。生の自分なま分であること。自然体の自分であること。

ただ「いる」だけでいい。寝転んでいればいい。そんな世界に身をゆだねること。

「やじるべえ」の「第一期」。「①」でも、「②」でも、「③」でもない。「第一期」の「①（ゼ口）」の姿。赤ちゃんが見せてくれる、あの姿。

おしっこをしたくなる。何かを食べたくなる。飛びたくなくなるし、描きたくなくなる。そうして、学びたくなる。

そんなカラダの声を聞きながら、おしっこをする。何かを食べる。飛んだり、描いたり、する。そうして、学ぶ。

そこにあるのは、一つひとつの「なる」を「する」に変えていく姿。

「学びたくなる」。だから「学ぶ」。たったそれだけの、シンプル

るな姿。

しかし、それは、「立派に思われない」。だから「学ぶ」とは、全く違うのです。

くつろぎと学びの混じり合い

力を抜いて、生きる。そこから「学びたくなる」が湧き出てくる。

年明け（2025年1月17日）に予定されているフレーベル館保育セミナー「ちがうかわる かわる」では、中雄雄一さん、中村博さんと、そのあたりのことを語り合ってみたいと思っています。

中正さんが理事長を務める大日向小中学校では、子どもたちがくつろぎながら、学んでいきます。そこには新しい学びの姿が実現されています。

それは、中村さんが園長、校長を務める桐朋幼稚園、桐朋小

学校でも同じです。

園庭でくつろぎながら、焼きいもを焼く。焼きいもを焼きながら、子どもたちは「ものが燃える」ということを、もっと知りたくなる。

知りたくなっちゃって、枯れ葉や枯れ枝を焼き場にくべてみる。思いもよらぬことが起きる。そうして、もっと知りたくなる。そこにある「くつろぎと学び」とが混じり合った姿を、セミナーでは語り合つつもりです。

話し合いのポイント

一つひとつの「なる」を「する」に変えていく。そんな「場」を、子どもたちと織りなしたことはありませんか。

そこには、葉っぱ、火、いもなど、人間を超えたものたちも参加していませんでしたか。陽ざし、風、虫、などなど。

告知



本連載と連動したセミナーを開催します。詳細は上の二次元コードよりご覧ください。